

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：こころキッズ	種別：認可保育所
代表者氏名：藪本 由美	定員（利用人数）：58名 （利用人数：61名）
所在地：〒221-0865 横浜市神奈川区片倉5-26-24	
TEL：045-565-5785	ホームページ： https://kk-kokoro.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2020年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社コイシカワ	
職員数	常勤職員：16名 非常勤職員：15名
専門職員	園長：1名 主任：1名
	副主任：1名 保育士：20名
	管理栄養士：1名 栄養士：1名
	看護師：1名 保育補助：1名
	調理員：4名
施設・設備 の概要	保育室：6室 トイレ：3ヶ所
	調理室：1ヶ所 事務室：1室
	園庭：有

③ 理念・基本方針

輝く生命（いのち）を明るく未来へ繋げる
これからの社会において、少子化が問題となっている今、1人ひとりの子どもがより生き生きと生活していける環境を整えていきたいと考えています。未来を作るのは子供たちです。その子どもたちの可能性を信じ、より良い未来がこれから先作れるよう、目の前の子どもたちの成長を見守り、保育をしていきます。

保育方針

- ・心も身体も健康な子ども
- ・豊かな感性と創造性のある子ども
- ・仲間を大事にし思いやりのある子ども
- ・自分で考えて行動できる子ども

家庭的な環境の中で、子どもたちが自己充実感を感じ、のびのびと生活していける場を提供していきたいと考えています。一人ひとりの思いを大切に、地域とも連携しながら様々な目で子どもたちを見ていける環境でありたいと考えています。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

園は最寄りの駅から徒歩7～8分の閑静な住宅地の中にあります。近隣には大小さまざまな公園や小学校、中学校、地区センター、ログハウスや広大な畑などがあり、自然環境等に恵まれています。子どもの主体性を尊重し「自分で考えて行動出来ることもを育成する」という目標に向かって子ども達が保育園で様々な体験を通して友だち

と関わり、色々なことを学び、基本的な生活習慣をしっかりと身に付けていきます。一人ひとりがのびのびと生活して自主性と他者への思いやりを身に付けていけるように保育に取り組んでいます。自園では、通常の保育の中で、様々なレッスンやお稽古、外遊びを体験します。これらの経験を通して子ども達に自分の好きなこと、得意なことを見つけ、子どもの可能性を広げていきたいと考えています。様々な事に興味を持ち「やってみよう」「たのしいな」の気持ちを大切にしています。一人一人の成長に寄り添い、自分らしさを発見する楽しさを感じていきます。

英語・・・英語を通して異文化や他者を受け入れる「気持ち」や「こころ」をそだてます。専門の英語の先生、ネイティブの先生が保育士として子ども達と楽しく英語に触れる環境を作っています。ダンス（フラメンコ）・・・ダンス（フラメンコ）を通じてリズム感を培い、みんなで踊る楽しさを体験し、外国の文化に触れていきます。

スイミング・・・4, 5歳児クラスの希望者を対象に 近隣のスイミングスクールに通っています。水に慣れ親しみながら、段階的に泳げるようになっていきます。食育・・・栽培活動、お買い物、収穫体験など、様々な体験活動が積み重なることで子どもの世界が広がっていき、豊かな心と元気なからだをつくります。食べる喜び、楽しみを通して感謝の気持ちを育みます。

茶道・・・日本の文化を体験し、礼儀を学びます。思いやりのこころ、感謝の気持ちを養い、日本の文化に触れ、親しみを持ち、ます。卒園時には、保護者への感謝の気持ちを お茶会を開き、感謝の気持ちを表現します。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年10月15日（契約日）～ 令和6年3月29日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの主体性・自主性を尊重した保育を行っています

子ども一人ひとりの主体性を生かし、個々の発達や興味関心に合わせた、絵本、ままごと、見立て遊び等、自分で選びとれるよう遊びの環境を整え、好きな遊びに集中できるようにしています。子ども同士の関わりでは、職員が介入し気持ちを代弁するなどし、子どもの気持ちに寄り添っています。乳児期の保育を丁寧にすることで人としての土台を育み、幼児への成長として「子どもの成長を見据えた10の目指す姿」へ繋げています。職員は、保育を振り返りから見えて来る子どもの姿を次の保育で生かし、一人ひとりの子どもが、自分らしく成長できるよう関わっています。

2)近隣農園と連携し、野菜を通じて子どもの五感を育てています

園周辺には、多くの公園や畑があります。近隣で農園を営んでいる地域の人から野菜を提供してもらい、一緒に栽培、収穫を行い、苗の育て方の指導してもらうなど交流を図っています。また、園でも野菜の苗に水やりをして育てたなどの食育活動を活発に行っています。農園での野菜を見て触れることで、子ども達は季節ならではの旬の野菜を知り、野菜の種類や味、季節を肌で感じています。多く収穫できた野菜は保護者へ提供しています。

3)職員は保育に取り組む姿勢を話し合い、共有しています

全職員がコミュニケーションをとり、子どもを第一に考え、子どもの家庭の状況や様子、対応方法などを情報共有しています。子どもたちが自己充実感を感じ、のびのび

と生活していける家庭的環境を提供出来るように話し合っています。理念に対する職員の心構えを具体的に示し、行動につながるようにしています。園長・主任とともに、事務業務時間の改善、休憩のとり方など職員の働きやすい環境づくりにも取り組んでいます。

4) 保護者への支援の取組が期待されます

保護者相談窓口、苦情解決が明示されています。保護者への第三者委員の認知度が低い結果となっており、意見が言いやすい環境への取組が期待されます。土日対応などの保護者支援への工夫が期待されます。

5) システムの活用により、業務の効率化が期待されます

法人内の年間研修計画や人事考課、保育活動、記録関係をシステム化し、職員の人事考課や業務の効率化をめざして取組を進めています。保育室の連携など保育環境に課題があり、棟を超える動線なども含めた業務改善の効率化を進めていくことが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回は、開所して3年目となり、初めての受審となりました。
全体の職員を3つのグループに分け、話し合いを行ったことで、日頃の保育を振り返る事が出来ました。それぞれのグループが意見を活発に出し合うことが出来た事で、職員同士のチームワークがより一層深まり、お互いの保育に対する思いを確認し、ワンチームとして保育を行っていく意欲が高まっていると実感しています。
実施出来ている事、今後取り組んでいく事がより明確になり、これからの保育をより良くしていく為の課題を見つけ、再認識することが出来ました。
専門的にそして客観的な立場で評価をいただけたことは、今後の課題みんなで認識する良い機会になりました。
頂きましたご意見、ご要望などは分かりやすく説明することを心掛け、今後の保育運営に繋げていきたいと思えます。
今回の第三者評価の受審に際し、ご尽力いただきました評価機関の皆様、お忙しい中アンケートにご協力いただきました保護者の皆様には心より感謝申し上げます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり